令和８年度

「運営に関する計画」

（中間評価）

大阪市立今津中学校

令和　８年　10 月

（様式１）

大阪市立今津中学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

１　学校運営の中期目標

【学校教育目標】

○生徒の願いや実態を把握し、「確かな学力」と「豊かな人間性」を育て、自立した個人として「力強く生きる力」を培う教育活動を推進する。

【めざす学校像】

○学校全体の人権意識を高め、生徒・教職員が安心して学習活動・教育活動に専念できる落ち着いた学校づくり

○生徒・教職員一人ひとりを大切にできる学校、安心して働ける職場環境を構築できる学校づくり

○生徒一人ひとりが日々の学校生活に充実感を持ち、将来に夢と希望を抱く教育の推進

○地域社会の一員として、地域・保護者から信頼される学校づくり

【学校努力目標】

○自分を大切に、友達を大切にしよう

○来たときよりも美しく

○５分前行動をしよう

○すすんで元気なあいさつをしよう

現状と課題

○【学校教育目標】である、生徒の願いや実態を把握し、「確かな学力」と「豊かな人間性」を育て、自立した個人として「力強く生きる力」を培う教育活動を推進している。

○現在は、生徒が日々の授業、行事などの教育活動に前向きな姿勢で取り組んでいる。また、校内環境を整えながら生徒が安心して教育活動に専念できている。

○学力調査の結果では、チャレンジテストで大阪府の平均点を１・２・３年生とも上回る教科もあるが総体的には全国や大阪府の平均点と同値もしくはやや下回る状況である。また、アンケートの結果として、自分の考えや意見を伝える、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりする項目の数値が低い傾向にある。

○体力の向上においては、全国体力・運動能力、運動習慣調査の結果で、合計点で全国平均を下回っている状態が続いている。今後も生徒の運動に取り組む意欲を高めるとともに、保健体育の授業や体育的活動の工夫を図り、全ての学年の生徒の体力向上につなげていかなければならない。

○健康の保持増進においては、感染症拡大防止に取組を継続して推進している。また、保健・食育活動においても、生徒自らが自主的な活動となるように「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり」や「朝食フォトコンテスト」の取組を通して、健康的な生活習慣を身につけるように取り組んでいる。今後も生徒自らが規則正しい生活を心がけ、食事・睡眠・運動・学習のバランスを意識した生活習慣の確立に向けて、さらなる取組を進めていく必要がある。

○ICT 校内環境の整備を行うとともに学習用端末の持ち帰りをできるようにし、有効活用できる取組を進め、家庭との双方向通信、オンライン授業の実施、デジタルドリル、ドリルパークを活用し、授業において教職員や生徒が ICT 機器を活用する場面を増やしてきた。

●不登校生徒（年間 30 日以上欠席）の比率は前年度を若干下回る結果であったが、不登校生徒に含まれない長期欠席生徒を合わせた比率は 12%を超えている。いじめと認知される事案とともに、その減少と解消に向けた校内での取組だけでなく、関係諸機関との連携を進めながら、継続して取り組んでいかなければならない。
●学力調査や校内テストにおける下位層の生徒が各学年に一定数存在するため、継続した授業力向上とともに教材や指導方法を工夫した取組を通じて、基礎学力の定着を図る必要がある。
●教職員が ICT 機器を有効活用できるように環境を整備し、授業や取組で活用できる取り組みを進めてきた。今後は生徒の端末活用率を上げながら学力向上につなげていく必要がある。
●保健体育の授業や学校行事、部活動等の体育的活動を通して、運動することの楽しさを感じることができ、仲間とともに活動することにより体力の向上と健康の保持増進に取り組む必要がある。
●教員の働き方改革を進めるため、会議資料や学校評価アンケートのデジタル化、自動採点システムの活用とアンケート集計のデジタル化を進め、継続的に取り組む必要がある。

中期目標
【安全・安心な教育の推進】
◇令和８年度～令和11年度の年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
◇令和８年度～令和 11 年度の年度末の年度目標アンケートにおける「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】
◇令和８年度～令和 11 年度の年度末の年度目標アンケートにおける「学級の生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか」の項目に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。
◇令和８年度～令和 11 年度の年度末の年度目標アンケートにおける「規則正しい生活が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】
◇令和８年度～令和 11 年度の年度末の年度目標アンケートにおける「授業で学習端末をどの程度活用しましたか」に対して、週３日以上と回答する生徒の割合を 80%以上にする。
◇令和８年度～令和 11 年度の年度末の校内調査において、教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を月 35 時間以下とする。

2　中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

◇年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

◇年度末の年度目標アンケートにおける「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。

◇年度末の年度目標アンケートにおける「学校行くのは楽しいですか」に対して、肯定的に答える生徒の割合を前年度（78.0%）以上にする。

◇年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的に「思う」と回答する生徒の割合を前年度（80%）以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

◇年度末の年度目標アンケートにおける「学級の生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか」の項目に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。

◇年度末の年度目標アンケートにおける「規則正しい生活が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上にする。

◇中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一の母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。

◇年度末の校内調査において「学校の授業は分かりやすい」と肯定的に答える生徒の割合を 80%以上にする。

◇大阪市英語力調査における CEFR　A1 レベル相当以上の英語力を有する中学３年生の割合(４技能)を 55%以上にする。

◇全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より２ポイント向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

◇年度末の年度目標アンケートにおける「授業で学習端末をどの程度活用しましたか」に対して、週３日以上と回答する生徒の割合を 80%以上にする。

◇年度末の校内調査において、教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を月 35 時間以下とする。

◇授業日における生徒の８割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。

◇令和８年度末の学校評価アンケート（生徒）の「図書室をよく利用する」の項目について、肯定的な回答の生徒の割合を、前年度（９%）以上にする。

3　本年度の自己評価結果の総括

最重要目標１【安全・安心な教育の推進】

最重要目標２【未来を切り拓く学力・体力の向上】

最重要目標３【学びを支える教育環境の充実】

（様式２）

大阪市立今津中学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ◇年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。 ◇年度末の年度目標アンケートにおける「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。 ◇年度末の年度目標アンケートにおける「学校行くのは楽しいですか」に対して、肯定的に答える生徒の割合を前年度（78.0%）以上にする。 ◇年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的に「思う」と回答する生徒の割合を前年度（80%）以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向１　安全・安心な教育環境の実現】 毎月の初めに各学級でいじめアンケートを実施し、いじめの早期発見と早期対応を行う。自身のことだけでなく、周りで起こっているいじめも申告させることで、いじめの抑制効果も期待する。	B
指標 ○年度末の年度目標アンケートにおける「学校行くのは楽しいですか」に対して、肯定的に答える生徒の割合を前年度（78.0%）以上にする。 ○各学年での毎月のいじめの件数を調査し、解消した割合を高める。 ○校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的に「思う」と回答する生徒の割合を前年度（80%）以上にする。	
取組内容②【基本的な方向１　安全・安心な教育環境の実現】 週に１回不登校生徒について情報交換を行い、登校に向けて個に応じた継続的対策を行い、保護者や関係諸機関とも連携して改善を図る。	B
指標 ○前年度不登校生徒の改善割合（13.9%）を数値を増加させる。	
取組内容③【基本的な方向２　豊かな心の育成】 人権に関する学習を通して、豊かな人権感覚と生命を尊重する意識を育て、人権尊重の精神と実践力を養う集団を育成する。	B
指標 ○年度末の年度目標アンケートにおける「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上にする。 ○校内調査における「私は、命や人権の尊さについて考えたことがある」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を 85%以上にする。 ○校内調査における「私は、まわりの人に思いやりをもって接している」の項目に対して、肯定的に答える生徒の割合を 85%以上にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
○教職員および生徒会役員と風紀委員による登下校指導、入室指導に継続して取り組んでいる。 ○月１回、学校独自のいじめのアンケートを実施し、早期発見・解決に努めている。指導が必要な事案が発覚したときは、学校全体で取組み対応している。１学期のいじめ認知件数は 10 件で、継続して解消に向け取り組んでいる。８件が解消となり、残り２件については、継続して解消に向け取り組んでいる。 ○年度初めに生活指導部により学校のルールについての研修を全教職員に行い、教職員が同一見解で指導できるように努めている。学校全体で情報交換し重篤な事案に対しては学校全体で解決に向けて取り組んでいる。昨年度、生徒主体となる校則の見直しを実施した。今後も継続的に検討していく。 ○人権感覚と命を尊重する意識を育成するため、宿泊行事や性教育、道徳教育、人権教育等に取り組んでいる。今後に教職員対象の校内いじめ問題に関する研修会、人権研修会を実施し、教職員の人権意識を高める取組を行う。 ○不登校生の居場所づくりとして、別室（校内 SSR）を準備し「鶴見区こどもの学習支援授業」や「学校元気アップ地域本部事業」を活用して学習指導及び登校刺激を行っている。今後も、この取組を充実させていく。１学期末の長期欠席生徒数は、75 人となっている。
今後の改善点
○いじめアンケートの実施や教育相談を通したいじめの早期発見・解決に取り組んでいる。今後も日々の授業や取組を通していじめのない、いじめを許さない学校づくりにさらに取り組んでいく必要がある。 ○学校のルールや時間を守ることは全体的にできているが、一部守れていない面や地域からの苦情が寄せられている事案があるため、その解消に取り組んでいかなければならない。 ○授業や取組を通した人権教育をさらに進めるとともに、教職員対象の人権教育に関する研修会を今後も実施し、教職員一人ひとりの人権意識を高め、学校組織として人権教育に取り組んでいく。 ○１学期末の長期欠席生徒数（10 日以上）は 75 名（11.13%）となっており、個々の生徒に状況に応じた対応を行うとともに、保護者や関係諸機関との連携をさらに進め、解消に向けて取り組んでいく必要がある。 ○様々な生活指導事案が増えており、その対応に苦慮している。これまで以上に地域・関係諸機関等と連携した生徒指導に取り組んでいく必要がある。

（様式２）

大阪市立今津中学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準　A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 ◇年度末の年度目標アンケートにおける「学級の生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか」の項目に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。 ◇年度末の年度目標アンケートにおける「規則正しい生活が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上にする。 ◇中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一の母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。 ◇年度末の校内調査において、「学校の授業は分かりやすい」と肯定的に答える生徒の割合を 80%以上にする。 ◇大阪市英語力調査における CEFR　A1 レベル相当以上の英語力を有する中学３年生の割合（４技能）を 55%以上にする。 ◇全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より２ポイント向上させる。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向４　誰一人取り残さない学力の向上】 　ICT 機器を活用し、生徒の実態に応じた指導方法の工夫・改善を行い、基礎・基本の定着を図る。	B
指標 ○学校評価アンケート（生徒）において「学校の授業は分かりやすい」と肯定的に答える生徒の割合を 80%以上にする。（オンライン授業も含め）	
取組内容②【基本的な方向４　誰一人取り残さない学力の向上】 　班学習の中で、多様な言語活動を学習に取り入れ、仲間とともに学びあう授業づくりに取り組む。	B
指標 ○年度末の年度目標アンケートにおける「学級の生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。	
取組内容③【基本的な方向４　誰一人取り残さない学力の向上】 　５教科において、それぞれの教科会でチャレンジテストの結果の分析と対策を行う。	―
指標 ○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一の母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。 ○令和８年度の中学校チャレンジテストにおける各学年各教科における平均点を府の平均点以上にする。	

取組内容④【基本的な方向５　健やかな体の育成】 　各学年でＣ－Ｎｅｔを活用したＴＴの授業を行い、生徒の英語学習への意欲を高める。 指標 ○大阪市英語力調査における CEFR　A1 レベル相当以上の英語力を有する中学３年生の割合（４技能）を 55%以上にする。	B
取組内容⑤【基本的な方向５　健やかな体の育成】 　基礎体力の向上を図り、運動に興味・関心をもたせるため、保健体育の授業や体育的活動を通じて、自主的、意欲的に取り組めるように工夫する。 指標 ○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に「好き」と回答する生徒の割合を 80%以上にする。	B
取組内容⑥【基本的な方向5　健やかな体の育成】 　年間を通じて健康の管理の指導、取り組みを実施する。また、長期休業前に健康指導を行う。 指標 ○年度末の校内調査における「私は、ふだんから手洗いを心がけている」に対して、肯定的に答える生徒の割合を 95%以上にする。 ○年度末の校内調査における「私は、規則正しい生活を心がけている」に対して、肯定的に答える生徒の割合を 90%以上にする。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

○日々、教材研究を行い、東書 web ライブラリー、ドリルパーク、自作プリントの活用など、基礎・基本の定着と向上を図るため、創意工夫して各教科で取り組んでいる。
○各教科とも班学習を取り入れた授業を行い、生徒間で意見の交換や教えあい等を積極的に行っている。
○ICT 機器を積極的に活用し各教科で指導方法を工夫し、基礎・基本の定着を図っている。また、ティーチング エンパワーメント事業を活用した取組、教員の授業力向上を図る研究授業や研究協議、教科会等を通じて教員個々の資質向上に努め、学力の基礎・基本の定着を図っている。
○３年生チャレンジテストは、９月２日に実施されたため、結果が出た後に検証する。また、大阪市英語力調査は、10 月 15 日に実施する予定である。
○保健体育の授業や体育的活動を通して、運動やスポーツの楽しさを伝える取組を継続して実施している。また、昼休みの時間に各クラスにボールの体育委員が中心となり貸し出しを行い、自主的に運動に取り組めるようにしている。
○保健委員会と食育委員会の活動を通して、保健だより、食育通信、学年集会、昼食時に健康応援放送などで規則正しい生活の重要性を伝え、健康管理や安全管理に取組み、健康への意識の向上を図っている。また、「朝食フォトコンテスト」の取組を通して、健康的な生活習慣を身につけるよう継続的に取り組んでいる。

今後の改善点

○班学習における生徒間の意見交換や教えあいに積極的に参加できる授業に今後も取り組み、共に学びあい理解できる授業づくりを進めていく。
○１人１台端末を活用した調べ学習や学習ツールに取り組めるようしていく。
○Ｃ－Ｎｅｔを活用したＴＴの授業を今後も進め、生徒の英語学習への意欲をさらに高めていく。
○保健体育の授業の導入での工夫、スポーツ大会や球技大会等を活用し、仲間とともに運動することの楽しさを味わうことができる機会を設けていく。
○保健委員会と給食委員会の取組を継続させるとともに、健康管理や安全管理に対する生徒及び教職員の健康への意識の向上をさらに推進していく。

（様式２）

大阪市立今津中学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ◇年度末の年度目標アンケートにおける「授業で学習端末をどの程度活用しましたか」に対して、週３日以上と回答する生徒の割合を 80%以上にする。 ◇年度末の校内調査において、教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を月 35 時間以下とする。 ◇授業日において、生徒の８割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。 ◇令和８年度末の学校評価アンケート（生徒）の「図書室をよく利用する」の項目について、肯定的な回答の生徒の割合を、前年度（９%）以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【{基本的な方向６　教育ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）の推進}】 　校内研修などを通じて、教職員の ICT 環境に関する理解を深めていく。そして、研究授業などの機会を利用して、１人１台学習用端末の活用の頻度を高めていく。 指標 ○年度末の年度目標アンケートにおける「授業で学習端末をどの程度活用しましたか」に対して、週３日以上と回答する生徒の割合を 80%以上にする。	B
取組内容②【基本的な方向７　人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 　スクールサポートスタッフや部活動指導員を活用した取組を進め、教職員の時間外勤務時間の改善を行う。 指標 ○年度末の校内調査において、教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を月 35 時間以下とする。	B
取組内容③【基本的な方向８　生涯学習の支援】 　生徒が図書館に来館しやすいような環境を整備する。また、生徒に図書に関する情報を積極的に発信していく。 指標 ○年度末の学校評価アンケート（生徒）の「図書室をよく利用する」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を９%以上にする。	B
取組内容④【基本的な方向９　家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 　地域・保護者ができる限り行事に参加できるように情報発信、企画・運営を心掛ける。	B

指標 ○年度末の学校評価アンケート（保護者）の「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」の項目について、肯定的に答える割合を 70%以上にする。 ○年度末の学校評価アンケート（保護者）の「学校のホームページをよく見ている」の項目について、肯定的に答える割合を 40%以上にする。
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
○各授業やドリルパーク、東書 Web ライブラリーを活用して、新規に導入された１人１台学習者用端末の活用を進めている。また、１人１台学習者用端末の持ち帰ることにより、家庭での学習に取り組めるようにしている。１人１台学習者用端末の活用を進めているが、今後も継続的に活用できるように進めていく。 ○教職員への声掛けとともに端末の活用を工夫し、会議時間の短縮や業務の効率化を図り、働き方改革に取り組んでいる。７月末までの教職員時間外勤務の時間数が月ごとに 60 時間を超える教職員は、11 名（令和７年度 13 名）であった。教員の一人当たり平均時間外勤務時間（令和８年７月末）は 39 時間 42 分（令和７年度 41 時間 24 分）となり改善されている。 ○図書館補助員、学校元気アップコーディネーターの協力を得た図書館開放を行い、生徒の図書館の活用しやすい環境整備に取り組んでいる。
今後の改善点
○１人１台学習者用端末の持ち帰りや授業で活用しやすい環境をさらに整えていく。また、デジタルドリルの活用を推進していく。 ○教職員の端末の活用の向上に向けた研修会の実施等を検討していく。 ○今後も採点システムの有効活用、資料の準備を工夫することによる会議時間の短縮、部活動に従事する時間の効率化を進めていく。 ○図書室の授業での活用を増やすとともに、今後も昼休み、放課後の開放などに取り組んでいく。 ○情報発信を進め、保護者や地域の方が学校行事等に参加できる環境を整えていく。